【一薬の魅力⑬西日本唯一の漢方薬学科〈４〉福岡県初の取り組み　本学が福岡県の委託を受け、県内に自生している薬用植物の調査を行っています】

2025/４/10 公開

第一薬科大学は福岡県の依頼を受け、県内に自生している薬用植物の調査にあたっております。漢方薬に使われる生薬の原料として需要が見込まれる薬用植物を栽培することによって、中山間地域の活性化を目指した農業振興の一環。福岡県では初の取り組みです。

西日本で唯一、漢方薬学科があり、漢方にくわしい教員らがいるということで本学が委託を受けました。

令和６（２０２４）年度に開始し、７年度も引き続き調査を実施します。

生薬の多くが中国産だそうで、日本国内では北海道などで生薬の原料となる薬用植物を栽培する動きがみられます。ところが福岡県ではほとんど栽培されていない状態だそうです。

県によると、県内の中山間地域での生産に適した需要のある薬用植物の品目選定に向けた自生地調査などを行うことによって、やがては薬用植物の産地化を推進し、その地域の活力向上につなげたいねらいがあるそうです。

３月下旬に県庁で行われた会議では、本学教員が県職員らに対してスライドで６年度の調査結果を報告。対象地域は県内３８市町村で、そのうち６年度は福岡市や北九州市、添田町など１０市町で実施し、リンドウやカノコソウ、シャクヤクなどの自生を確認し、栽培の可能性についても説明しました。